公立大学法人　大分県立芸術文化短期大学

令和４事業年度の業務実績に関する

項目別評価（大項目評価）及び全体評価

令和５年７月

大分県地方独立行政法人評価委員会

令和４事業年度の業務実績評価（大項目評価）

Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、25 項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。

②全学科横断型の「アートマネジメントプログラム」が開講５年目を迎え、３科目において全学科から 141 名が受講し、令和４年度に修了した 31 名に認定証を授与したことに加え、「修了プロジェクト」のアンケートでは、全体的な満足度で「強くそう思う」・「そう思う」が 100%となり、教育の質の向上が図られていること。

③３年ぶりにインターンシップを実施するとともに、ガイダンスや模擬面接などきめ細かな支援を行ったこと。また、令和４年度の就職率は 98.7%、進学率は 100%となり、それぞれ目標の 90%を大きく上回っていること。

④過去に行われた選抜実施状況のデータを分析し、高校訪問を強化することで志願者を増加させていること。

⑤ＪＲ九州エージェンシーと連携した広告制作や警察本部と連携した特殊詐欺被害防止啓発など、地域や企業、行政との一層の連携を図るとともに、実践を通して専門性を生かす体験的・主体的学修活動を推進していること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

〇教育の内容及び到達目標

・芸術系と人文系の学科を併設する本学の特色を活かした全学横断型「アートマネジメントプログラム」は開講 5 年目を迎え、3 科目において全学科から延べ 141 名が受講し、令和 4 年度に修了した 31 名に認定証を授与した。

・美術科デザイン専攻では、日本最大手の映像プロダクション「AOI Pro」と映像制作についての実践的な特別講義を４回に渡って実施し、学生の技術と知識向上が図られた。

・情報コミュニケーション学科では、２年前期「小論文講座」において、将来のキャリアを見据えた論文のテーマ選びを推奨し、学生自らが積極的にキャリア形成に有益な情報を得られるよう改善した。

○教育の実施体制

・美術科では、当初に計画されていたカリキュラムの点検・評価に加え、基礎から応用へ段階的な学びとなるよう見直しと変更を行った。

○学生への支援

・卒業生・修了生満足度アンケートにおいて、全体の満足度がコロナ禍前を含めた過去５年間で最も高い 81.7%となった。

・３年ぶりのインターンシップやガイダンス、模擬面接などきめ細かな支援を行っている。また、令和４年度の就職率は 98.7%、進学合格率は 100%となり、それぞれ目標の 90%を大きく上回った。

○地域社会への貢献

・情報コミュニケーション学科では、新たに由布市で活動を実施し、同市内においてアスパラガスの収穫支援を行うとともに、農産物の付加価値を高めた商品に関する情報発信に取り組んだ。

・芸短ギャラリーを活用した制作展の開催、音楽ホールを活用した公演など、教職員と学生による新たなキャンパス利用を推進するとともに、後期からは新規団体及び一般市民向けに施設の貸出を再開し、これまでの人文棟教室や体育館等に加えて、音楽ホールや芸短ギャラリーの貸出も新たに開始した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
教　育	12			2	10
研　究	6			4	2
社会貢献	6			2	4
その他の目標	1			1	
合　計	25			9	16

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・本学の教育研究等の質は、学生への支援、地域社会への貢献を含め、毎年着実に向上しており高く評価する。中でも、学生の就職率・進学率は今年度も極めて高い水準を維持している。引き続き、キャリア教育の充実と進路支援の強化により、高水準の就職率・進学率の維持に努めてほしい。

・各学科において多数の受賞は、教育研究の成果として大いに評価できる。

・カリキュラムやコースのあり方の検討は、個別成果のみならず、全学的な成果に、どう影響づけ反映していくのかが重要である。日本最大手の映像プロダクションと実践的な特別講義に取り組んだことが、デザイン専攻メディアデザインコースの枠を超えて全学的な学生の技術と知識向上を図ることができたのかどうか、判然としないまま自己評価が過去の評価結果を一気に高める結果にされた経緯を知る必要がある。

・創造性を旨とする大学環境の中にあり、教員と学生が日々の研究・教育・社会貢献活動の中で生み出す成果に対する知的財産としての適切な評価や活用方法を把握しておく必要がある。

・大学もまたひとつの小さな社会としての中で生み出しかねない差別、格差、偏見、対立、分断などの社会的困難さは、コロナ禍自粛や相互監視でさらに助長されかねない状況を生んだ。ようやく緩やかな自粛解除が施されているものの、この間、学生が気づかず陥った自己閉塞や他者嫌悪などから生まれたキャンパスの雰囲気を是正していくための全学的努力が欠かせない。合理的配慮とは日々の学生生活の中ではじめて身に付くものであり、フードドライブも大切であるが、学生支援サポーターや留学生支援チューターといったヒューマンサポート活躍も大いに望まれる。

Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A **計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、７項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。

②学内会議や委員会の活性化を通じマネジメント強化を図るとともに、教育目的が達成されるよう、教職員の人材育成と計画的な教員採用について検討を行ったこと。

③予算と人的資源を最大限に生かして大学経営を行うため、業務の選択と集中の観点から、大学の魅力アップ、社会貢献、進路支援と学生確保、有為な人材確保の４項目に予算と人的資源を集中させ重点的に事業を実施したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

〇運営体制

・教育研究審議会、幹部会議や危機管理対策本部会議を開催し、適切に大学運営を行った。

・ブランディングの検討を開始し、今後の方向性を見出した。

〇人事の適正化

・新たな取組として、非常勤職員の選考を公募で行い、優秀な人材の確保に努めた。

また、令和５年３月末退職教員の後任として、候補者の公募、模擬授業、面接等を経て、優秀な人材を確保した。

〇業務の選択と集中

・予算と人的資源を最大限に生かして大学経営を行うため、業務の選択と集中の観点から、大学の魅力アップ、社会貢献、進路支援と学生確保、有為な人材確保の４項目に予算と人的資源を集中させ重点的に事業を実施した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
運営体制	3			2	1
人事の適正化	3			2	1
事業の選択と集中	1				1
合　計	7			4	3

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・人事の適正化に向け、新たな試みとして非常勤職員の選考を公募で行ったことは、優秀な人材の確保に向けた有益な手法として高く評価する。

・今後も地域ニーズの的確な吸い上げを行うなど大学ブランドの構築へ鋭意努めてほしい。一方で全国の中でも大分県が抱える少子・高齢化や人口流失・過疎化現象などの地域課題はまった無しの状況であり、喫緊の対応や改善が望まれる中、アート思考や創造性煥発などの得意技を有した大学人材が総がかりで取り組む覚悟が必要である。それらが反映される教員評価では、管理者からの視点に加えて、教員相互の信頼関係づくりやチームティーチングの意識の中で、大学全体における個々の役割や大学組織への多方面からの貢献意識を涵養することが大切である。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A **計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、8 項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。

②リニューアルしたキャンパス施設の貸出基準を整備するとともに、安全･防犯対策を講じつつ、新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながら教育研究に支障のない範囲で、広く県民の利活用を促し自己収入の確保につなげていること。

③室温管理の徹底、空調機の稼働管理等に加え、教授会で経費削減を呼びかけるなどに取り組み、燃料費高騰による光熱費の上昇を最小限に抑えたこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○事務等の効率化及び経費の抑制

・燃料費が高騰するなか、経費節減に取り組み、電気及びガスの使用量を削減した。

・非常勤職員を県外講師から県内講師に見直しを行った。

○自己収入及び外部資金の獲得

・チケット制に加え、少額の受講料（300 円）については、券売機（ガチャ機）によるチケット発行を導入し、利用者の利便性向上を図るとともに、受講料を確実に徴収した。

・貸出可能施設を拡大し、感染予防対策に留意しながら、自己収入の拡大に向けて積極的な貸し出しを行った。

○資産の適正管理及び有効活用

・教育研究活動における知的財産に関する相談を広く受け付けることで、相談件数を増加させ適切な支援を行った。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
事務効率化・経費抑制	2				2
自己収入・外部研究資金の獲得	3			1	2
資産の適正管理・有効活用	3			2	1
合　計	8			3	5

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・財務の健全性のためには、弛まぬ事務効率化・経費削減（支出減）と収入増のための努力が欠かせない。既に鋭意努力しているが、諸物価高騰の時節柄、更なる光熱費等の経費削減とともに、施設の外部貸出等を通じた収入の増加に向けて努力してほしい。

・大学施設の公開・開放と安全・防犯は背中合わせの課題だが、コロナ禍がようやく収まりつつある昨今、安全・防犯の強化が幅広い市民利用や地域社会への還元を阻害することになりはしないか、十分な配慮が求められる。一方、大学が所有する知的財産を積極的に公開し、社会的な相談を応じることが、さらに大学の学術研究の発展及び大分県民の社会生活向上を促す上から大いに評価できる。

Ⅳ　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A **計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

（２）判断理由

①小項目評価の集計結果では、３項目のすべてがⅢ（順調に実施している）であること。
②認証評価機関から適合している旨の認証評価を受けたこと。
③ホームページやＳＮＳ等を活用し、積極的な広報を展開したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○自己点検及び自己評価の充実
・大学基準協会と連絡を密に行い、円滑な書面審査・実地視察を経て、短期大学基準に適合しているとの認証評価を受けた。
○情報公開や情報発信の推進
・アクセス情報の分析に基づくホームページの更新と、ＳＮＳへのニュース等の投稿を行うことで効果的に情報発信を行い、アクセス数とフォロワー数の増加につなげた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実施で きていない	Ⅲ 順調に実施し ている	Ⅳ 上回って実施 している
自己点検 ・自己評価	1			1	
情報公開 ・情報発信	2			2	
合　計	3			3	

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。
※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・情報セキュリティの問題は、学内のネットワークの問題であるのみならず、学生・教職員の情報セキュリティに関するリテラシー教育に関わる問題でもある。堅牢なセキュリティ構築の一方で、学生・教職員に対するリテラシー教育もしっかりと行ってほしい。
・ホームページのアクセス数やＳＮＳのフロワー数の増加から、学校の魅力をアピールできていると言える。
・コロナ禍がようやく収まりかけていく時期、あらためてコロナ再発再燃防止や、事故の防止及び事故・災害発生時の安全確保が望まれる。一方、個人のハラスメントが全学的に与えるダメージは計り知れない。日頃からハラスメント防止に向けた教職員ならびに学生との相互信頼や親和的なコミュニケーションが欠かせない。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標

（１）評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

（２）判断理由

①人権侵害や各種ハラスメントの防止に取り組んでいたものの、教員から学生に対するハラスメント事案が確認されたこと。

②キャンパス整備事業で整備した施設・設備について、各種維持管理契約を締結し、委託業者とも連携しながら、適正に管理・運営したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○施設・設備の整備と活用

・キャンパス整備事業で整備した施設・設備について、各種維持管理契約を締結し、委託業者とも連携しながら、適正に管理・運営した。

・老朽化した人文棟の漏水防止工事及び同棟エレベーター等の改修工事を行った。

○大学の安全管理

・危機管理対策本部・幹事会を適宜開催し、新型コロナウイルス感染症対策を行うとともに、防災訓練やＢＣＰ研修を実施した。

○情報セキュリティの確保

・教務学生システムについて、その情報の取扱いなどにセキュリティ上の問題がないことを確認した。

○人権尊重の推進

・全教職員を対象とした研修を実施し、ハラスメント防止に取り組んでいたが、ハラスメントの事案が確認された。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施していない	Ⅱ 十分に実施できていない	Ⅲ 順調に実施している	Ⅳ 上回って実施している
施設・設備の整備と活用	2			2	
安全管理	1			1	
情報セキュリティ	1			1	
人権尊重の推進	2		1	1	
合　計	6		1	5	

（注）大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※　小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、Ａ評価（計画どおり進んでいる）となる。

（３）評価にあたっての意見、指摘等

・教員から学生に対するハラスメント事案が確認されたことは大変残念なこと。この事案の発生により、これまで鋭意取り組んでこられたハラスメント防止策は機能しなかったと評価せざるをえないことになる。今後はこれまで以上に人権意識の高揚に向けた活動、コンプライアンス意識の醸成に向けた活動にしっかりと取り組んでほしい。

・おおむね計画通りに進んでいるものの、人権尊重の推進の項目において、ハラスメントの事案が確認されている。これまで、全教職員を対象とした研修を実施し、ハラスメント防止に取り組んでいる。さらに、発生後は学生の個別指導における注意点に関するガイドラインを作成している。しかし、予防することができなかった点において重大な事案であり、計画通りに進んでいないと判断する。

・今回の事案は、大学内のキャンパスづくりや施設整備が順当に進み、芸術系想像力や創造力が社会的な気運や必要性や時宜を得て、まさに追い風を受けた帆船のように発展していく本学の可能性に対して水を注すものとなった。学内で生じたハラスメント問題は決して矮小化されることなく、適切な対応を通し、今後へ向けた大きな戒めとして学内全体で改善されることを期待する。

２　全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

年度計画を概ね順調に実施している。

判断理由

①　大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」についてはＳ評価（特筆すべき進行状況）であり、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」及び「Ⅳ自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」についてはいずれの項目もＡ評価（計画どおり進んでいる）であること。
ハラスメントの事案により、「Ⅴその他業務運営に関する重要目標」がＣ評価であること。

②　「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関して、全学科横断型の「アートマネジメントプログラム」が開講５年目を迎え、全学科から 141 名が受講し、令和４年度に修了した 31 名が認定証を授与されるなど、新たな学修の展開を引き続き推進していること。また、就職・進学それぞれに対応した進路支援プログラムの実行や進路支援室と各学科の連携によるきめ細かな面接･相談等を行った結果、就職率は 98.7%、進学率は 100%と、高い水準を維持していること。更に、県内各地域、各種団体、企業との協働による制作・発表活動、地域支援活動などを実施するとともに、ＪＲ九州エージェンシーと連携した広告制作や警察本部と連携した特殊詐欺被害防止啓発など、地域や企業、行政との一層の連携による実践を通して専門性を生かす体験的・主体的学修活動を推進していること。

＜委員会からのコメント＞

○今年度重点的に取り組んだ４つの事項（①大学の一層の魅力アップ、②地域社会への新たな貢献、③学生の進路支援及び志願者の確保、④有為な人材の確保と財務状況の見直し）は十分な成果に結びついている。最大の問題は、ハラスメント事案。いろいろな施策に取り組んできたにも関わらず、このような事案が一つでも発生することで、これまでの努力は水泡に帰してしまう。人権の尊重・コンプライアンス意識の醸成は日々の弛まぬ努力しかない。引き続きの人権意識の向上の取り組みに尽力してほしい。

○ハラスメント事案に関しては、綱紀粛正の徹底と大学の信頼回復を強く望む。

○全国的に見ても芸術短大は希少価値がいよいよ高まっており、追い風と言える。同時に社会全体のウェルビーング（幸せづくり）や社会再生からも、芸術系人材がもたらす創造力や想像力が創発する幸福づくり、新たな産業創造、イノベーション、他領域とのコラボレーション効果が注目されている。それだけに今回の事案は評価を前に、画竜点睛を欠く、と言わざるをえない。このたび学内で生じたハラスメント問題は決して矮小化されることなく、適切な対応を通し、今後へ向けた大きな戒めとして学内全体で改善されることを期待する。

○日展「特選」受賞など、各学科において在学生の受賞者が多数輩出されている。これは、教育内容の充実や質の向上によるもの。また、大分県芸術文化スポーツ振興財団などと連携した著名人の承知は、大分という狭い視野の中にいる学生に良い刺激を与えている。

○志願者数・就職率・進学率ともに高水準を維持していることは、大学の一層の魅力アップにつながっている。

○コロナ禍の中、積極的な大学の教育研究等の質の向上が実践されている。

【参考：大項目評価の結果】

Ⅰ 教育研究等 の質の向上	**S 特筆すべき 進行状況**	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
Ⅱ 業務運営の 改善及び 効率化	S 特筆すべき 進行状況	**A 計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
Ⅲ 財務内容の 改善	S 特筆すべき 進行状況	**A 計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
Ⅳ 自己点検 ・評価及び 情報提供	S 特筆すべき 進行状況	**A 計画どおり**	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
Ⅴ その他業務 運営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	**C やや遅れて いる**	D 重大な改善 事項あり